



〇楽しむ？

私の個人的な思いを記述してみます。(これまでもそうでしたが…)

ときどき次のような発言にふれることがあります。「今度の試合は楽しんでいきたいと思えます。」 批判するわけではありませんが、少し「？」を感じます。これまで厳しい練習に耐え、技術を磨いてきた成果をためすために試合に臨むわけです。楽しむだけでよい結果が出せるだろうか？と考えてしまいます。ただ、緊張感をやわらげ実力を十分に発揮させるための自己暗示というような意味では必要な部分かもしれません。

「〇〇を楽しむ。」と似たような表現ですが「〇〇を面白い。」というのがいいと私は思っています。私ではなく誰かが言っていた表現を借りました。

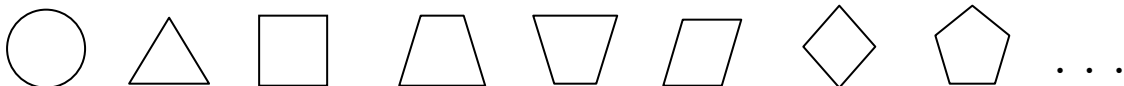
仕事は自己実現のためでもあります。お金を稼いで生活するための労働でもあります。楽しむ場面も少しはあるかもしれませんが、大変なことが圧倒的に多いでしょう。楽しんで仕事ができるのはほんの一握りの人だろうと思います。しかし、大変な仕事の中でも面白いことはたくさんできます。私は必要に迫られて国語の文法の教材研究をしていたことがあります。中学校・高校と文法の学習に面白みを感じていたことはほとんどありませんでしたが、このときは言葉の変化のおもしろさなどにふれ、文法の学習（日本のことば）を面白いと感じました。

工事現場で働くにしてもすでに設計図というものがあり、その指示通りに作業をするようになります。現場で自分の創意工夫を発揮する場面というのはほとんどないでしょう。しかし面白さというのはいろいろなところで見つかります。材料を積む順番を工夫することによって能率が倍以上になるということや設計図が力学的な理にかなっていることが分かった（設計図が読めるようになった）ときなどです。このような小さな積み重ねが仕事への誇りを育んだりしていくのだろうと思います。「面白い」は私の大切なキーワードの一つです。

〇自校自賛

専門学校は成人になろうとする（すでになっている）若者（だけでなく）の高等教育機関です。学則はありますが、小・中・高校までのような細かな決まりはあまりありません。そのため比較的個性がよく発揮される場所だというふうに私は思います。

誤解を恐れずに言うならば、私はその学生たちの個性の違いを面白がっています。思考様式や振る舞いなどは学習や努力・訓練(?)によって変えることができるように思いますが、個性はその人が持って生まれたかけがえのないもので変えようがないものであり、変えなくてもよいものだと思います。将来その違う個性が生かされる場に一つでも多く出会ってほしいと願っています。



再び個性 保育専門学校の学生たちは実習及び将来の仕事で主に小学校入学前の、まさに個性だらけの子どもたちと接していきます。小学校に入学する前のある程度の行動様式（マニュアル）をしつけていく場面もあるでしょう。そんなときは教育指導要領（保育指針）に沿って指導していくと思いますが、自分の個性と子どもたちの個性を把握し、自分ならではの支援方法を身につけていってほしいと思っています。先日、主に1年生が「おっぱいまつり」に参加しました。たくさん子どもたちと出会いました。暑い中お疲れさまでした。

